

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 14037

建築物名称	新日本学園改築工事
建築主	社会福祉法人 新日本学園 理事長 鈴木 寛
建築物の所在地	川崎市中原区木月伊勢町3番3号
設計者氏名、建築士事務所名	安江 知之 株式会社安江設計研究所 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,741.84m ²
用途	児童養護施設
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上3階
工事完了年月	平成28年10月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency

CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE川崎2011年版追加補綴Ver.2 (BPIBE対応) 使用評価ソフト: CASBEE川崎 0.3.0 (BPIBE対応) CASBEE川崎_2011060602.0

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新日本学園 改築工事	階数	地上3F
建設地	神奈川県川崎市中原区木月伊勢町3番3号	構造	RC造
用途地域	準防火地域・第二種中高層住居専用地域	平均居住人員	120 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年10月 竣工	評価の実施日	2014年8月27日
敷地面積	2,316 m ²	作成者	安江設計研究所
建築面積	1,050 m ²	確認日	2014年8月27日
延床面積	2,742 m ²	確認者	安江設計研究所



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100%

② 建築物の取組み: 87%

③ 上記+②以外の: 87%

④ 上記+: 87%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.6**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.5

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.3**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している		
2 まちなみ・景観への配慮	川崎市の景観計画に則した色彩としている	2.3/4.3	2.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率40%以上である		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	卓越風向に対する建築物の見付面積比80%未満、隣棟間隔指標Rw0.5以上である	0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.9
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.3 外皮性能	トップライトを設置している	0.5/1.1	2.5
3 3.1 3.1.3 屋光利用設備	カーテン・庇により、グレアを制御している		
3.2 3.2.2 屋光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している	1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率40%以上である		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	太陽光パネルを設置している	3.8/5.0	3.8
2 自然エネルギー利用			
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	自動水栓を採用している	2.7/4.6	2.9
2 非再生性資源の使用量削減			
3 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	卓越風向に対する建築物の見付面積比80%未満、隣棟間隔指標Rw0.5以上である	0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.0
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	厨房排気ダクト外部露出はステンレスダクトを使用している	0.3/0.5	3.1
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	自動水栓を採用している	2.3/3.9	2.9
2 非再生性資源の使用量削減	GL工法・OAフロアを採用している		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	ゴミの回収ボックスの設置を計画している	0.3/0.4	3.3
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	3.0
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物資源の保全と創出	川崎市緑化指針の基準に適合している	1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上	空地率40%以上である		
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	屋根・外壁・外床等に断熱材を使用している	3.8/5.0	3.8
2 自然エネルギー利用	太陽光パネルを設置している		
3 設備システムの高効率化	LED照明を採用している		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	卓越風向に対する建築物の見付面積比80%未満、隣棟間隔指標Rw0.5以上である	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.9**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の再利用		0.8/1.4	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物の熱負荷抑制	屋根・外壁・外床等に断熱材を使用している	3.8/5.0	3.8
2 自然エネルギー利用	太陽光パネルを設置している		
3 設備システムの高効率化	LED照明を採用している		
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				14037				
配慮項目	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
						評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境							0.40			2.5
1 音環境						2.6	0.15	2.6	1.00	2.6
1.1 騒音						3.0	0.40	3.0	0.40	
1 室内騒音レベル						3.0	1.00	3.0	1.00	
1.2 遮音						3.0	0.40	3.0	0.40	
1 開口部遮音性能						3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0	0.20	
1.3 吸音						1.0	0.20	1.0	0.20	
2 温熱環境						1.7	0.35	1.5	1.00	1.7
2.1 室温制御						2.5	0.50	2.1	0.50	
1 室温						3.0	0.38	3.0	0.57	
3 外皮性能		W				1.0	0.25	1.0	0.43	
4 ゾーン別制御性						3.0	0.38			
2.2 湿度制御						1.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式						1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境						3.3	0.25	3.6	1.00	3.3
3.1 屋光利用						5.0	0.30	4.2	0.30	
1 屋光率					共用部2.5%以上、宿泊部1.25%以上である	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口										
3 屋光利用設備		W			トップライトを設置している	5.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	4.0	0.30	
2 屋光制御		W			カーテン・庇により、グレアを制御している	2.0	1.00	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御						3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境						3.1	0.25	2.7	1.00	3.0
4.1 発生源対策						3.0	0.50	3.0	0.63	
1 化学汚染物質						3.0	1.00	3.0	1.00	
4.2 換気						2.0	0.30	2.3	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能								3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						1.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理						5.0	0.20			
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御					全館禁煙である	5.0	1.00			

Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.5
1 機能性				2.1	0.40	1.6	1.00	2.0
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	1.0	0.60	
1	広さ・収納性				-	1.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応				-	-	-	
3	バリアフリー計画			3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.5	0.40	
1	広さ感・景観		宿泊部:天井高2.5m以上である		-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				-	-	-	
3	内装計画			1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理				2.0	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計			2.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保			2.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性				3.0	0.31		-	3.0
2.1 耐震・免震				3.0	0.48		-	
1	耐震性			3.0	0.80		-	
2	免震・制振性能			3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.1	0.33		-	
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.23		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.23		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		3.0	0.09		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R	厨房排気ダクト外部露出はステンレスダクトを使用している	4.0	0.08		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R	給水管(VLP)・排水管(VP)・給湯管(SUS)を使用している	5.0	0.15		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.23		-	
2.4 信頼性				3.0	0.19		-	
1	空調・換気設備			3.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備			1.0	0.20		-	
3	電気設備		自家発電設備を備えている 電源設備・精密機械の地下空間への設置を避けている	4.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法			4.0	0.20		-	
5	通信・情報設備			3.0	0.20		-	
3 対応性・更新性				2.8	0.29	2.5	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり				2.4	0.31	2.0	0.50	
1	階高のゆとり			2.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ			3.0	0.40	2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性				3.0	0.38		-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性			3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性			3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性			3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性			3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース			3.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出				G	W	H		2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G				3.0
3 地域性・アメニティへの配慮								3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上								3.0
3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W	H		3.0

LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.8
1 建物の熱負荷抑制	W	H	屋根・外壁・外床等に断熱材を使用している	4.0	0.30		-	4.0
2 自然エネルギー利用				4.0	0.20		-	4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用	W	H	トップライトを設置している	4.0	0.50		-	
2.2 自然エネルギーの変換利用	W	H	太陽光パネルを設置している	4.0	0.50		-	
3 設備システムの高効率化	W	H	LED照明を採用している	4.0	0.30		-	4.0
集合住宅以外の評価 (ERRIによる評価)				4.0				
集合住宅の評価								
4 効率的運用				3.0	0.20		-	3.0
4.1 モニタリング	W	H		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	W	H		3.0	0.50		-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.9
1 水資源保護	W	R		3.0	0.15		-	3.0
1.1 節水				3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33		-	
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63		-	2.9
2.1 材料使用量の削減	W	R		2.0	0.07		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	W	R		3.0	0.24		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	W	R	-	3.0	0.20		-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	W	R	-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	W	R		2.0	0.05		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	W	R	GL工法・OAフロアを採用している	5.0	0.24		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22		-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32		-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68		-	
1 消火剤	W			-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)	W			3.0	0.50		-	
3 冷媒	W			3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮	W		ライフサイクルCO2=87%である	3.5	0.33		-	3.5
2 地域環境への配慮				3.0	0.33		-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善	G	W	H	3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減		R		3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制		R		3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制		R		3.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制		R		3.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40		-	
1 騒音				3.0	1.00		-	
2 振動				-	-		-	
3 悪臭				-	-		-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40		-	
1 風害の抑制				3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制							-	
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制				4.4	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のつら外に漏れる光への対策			光害対策ガイドラインのチェックリストの項目の過半を満たす、広告物照明を行っていない	5.0	0.70		-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	